THE 20th ANNIVERSARY
岡山白陵高校20周年記念同窓会報

That's Hakuryo

鍛えられ
育まれ
自己を磨く

CONTENTS

懐かしの卒業アルバムから
思い出は永遠に ❷

進学実績
トップクラスの進学校としての地位をますますゆるぎないものに ❹

部活動
スポーツ、文化両面でも頭角を現す文武両道に向けて果敢にチャレンジ ❻

座談会
あの日（とき）、あの時代（ころ） ❽

創立20周年記念事業
新たなる旅立ち ⓮

創立20周年に寄せて
理事長 三木 一正
校長 田野 勝彦 ⓯
同窓会長 大津 正和

懐かしの卒業アルバムから

思い出は、永遠に

辛く、厳しかった思い出も今はなぜか懐かしい。
卒業生たちそれぞれの胸に刻み込まれた
青春の日々を卒業アルバムから振り返る。

岡山白陵高校創設者・初代校長
三木　省吾先生

第1期生全員集合（'79年卒業アルバム）

課外研修（'82年卒業アルバム）

三木省吾先生学園葬（'84年卒業アルバム）

That's Hakuryo

鍛えられ
育まれ
自己を輝く

運動会（'92年卒業アルバム）

北海道修学旅行（'86年卒業アルバム）

校内マラソン大会（'95年卒業アルバム）

寮での食事風景（'87年卒業アルバム）

第19期生全員集合（'97年卒業アルバム）

授業風景（'89年卒業アルバム）

進学校としての地位をますゆるぎないものに

進学実績

英数国に重点を置いた中高6カ年の一環教育により、
毎年国公立難関校へ数多くの合格者を輩出しています。中でも、
近年の東大、京大といった最難関校への合格者数は県下でも屈指の実績を誇っており、
このほか医・歯学系学部への合格者数の多さも際立っています。
76年4月の開校以来20年あまりを経た今、
岡山県下トップクラスの進学校としての地位は
ますますゆるぎないものになろうとしています。

中学生徒数 97年4月現在

学年	男子	女子	学年計
1年	82	37	119
2年	84	41	125
3年	78	39	117
合計	244	117	361

高校生徒数 97年4月現在

学年	男子	女子	学年計
1年	137	71	208
2年	121	58	179
3年	138	52	190
合計	396	181	577

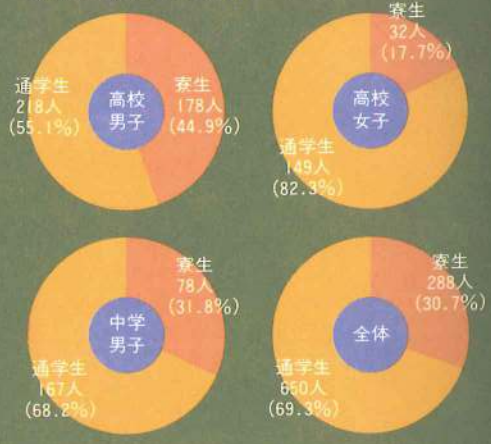
大学入試合格者数調べ

国公立大学	'93	'94	'95	'96	'97	私立大学	'93	'94	'95	'96	'97
東京大学	5	9	4	13	9	早稲田大学	9	10	12	11	14
京都大学	14	10	13	9	8	慶応義塾大学	12	9	12	12	8
大阪大学	4	6	9	9	11	東京理科大学	5	8	9	6	3
北海道大学	1	0	2	0	1	関西学院大学	16	16	15	19	11
東北大学	4	1	2	8	6	関西大学	17	15	25	13	18
名古屋大学	1	1	0	3	5	同志社大学	15	19	23	28	18
九州大学	3	3	3	1	5	立命館大学	10	18	13	15	15
神戸大学	6	9	12	8	8	大阪医科大学	2	3	3	4	1
岡山大学	6	7	9	5	13	関西医科大学	3	6	3	6	1
広島大学	4	8	4	4	4	兵庫医科大学	3	6	3	6	5
他国公立大学	77	62	78	68	59	他の私立大学	115	78	99	121	81
国公立大学計	125	116	136	128	129	私立大学計	207	188	217	241	175
(内 医学部)	(19)	(8)	(18)	(17)	(16)	(内 医・歯学部)	(32)	(32)	(29)	(38)	(33)
卒業生数							173	153	204	205	192

トップクラスの
ます

管理棟 教室棟の北側に95年7月竣工、鉄筋コンクリート3階建て（一部地下1階）。1階に事務室、職員室、校長室、2階に図書室、保健室、進路指導室、3階に会議室（多目的ホール）などが設けられています。

寮生と通学生の割合 97年4月現在



も頭角を現す
敢にチャレンジ

活動中の部

運動部

硬式野球部（高校）
軟式野球部（中学）
卓球部
庭球部
バスケットボール部
バレーボール部
サッカー部
陸上競技部
柔道部

文化部

放送部
新聞部
図書部
音楽部
美術部
科学部
写真部
演劇部

スポーツ、文化両面で文武両道に向けて果

部　活　動

97年春には、柔道部が岡山県代表として堂々全国大会に出場。
岡山白陵の歴史に残るこの画期的な出来事を筆頭に、
バスケットボール部、バレーボール部、サッカー部、陸上競技部などの
近年の活躍ぶりは目を見張るものがあります。
このほか、97年より演劇部が同好会から部に昇格するなど、
文化部の活動も年を追って充実しており、
進学面での実績と相まって、文字どおり文武両道を実現しつつあります。

座談会

あの日、あの時代

昨年、創立20周年を迎えた我が岡山白陵。
開校以来の歩みを振り返りながら、
OBと先生のリレートークでつづる母校と私。

志水 隆秀 先生
岡山白陵高等学校・中学校教諭（英語）。
岡山白陵高校（1期生）、
岡山大学法文学部を経て、
昭和58年より岡山白陵に勤務。
軟式野球部顧問。
熊山町在住。

大森 忠彦 先生
岡山白陵高校・中学校教諭（数学）。
昭和51年岡山白陵創設と同時に、
高砂白陵高等学校・中学校から転任。
寮監長、中学部長、高校部長。
長船町在住。

大西 修 さん（1期生）
昭和35年10月22日生まれ。
岡山白陵高等学校を経て、
慶應義塾大学商学部卒業。
㈱中国銀行大供支店勤務。
長船町在住。

大野 恵介 さん（11期生）
昭和45年7月19日生まれ。
岡山白陵中学・高等学校を経て、
明治大学農学部農業経済学科卒業。
帝人㈱スポーツ資材衣料事業部勤務。
宝塚市在住。

伊原木 博子 さん（17期生）
昭和51年10月21日生まれ。
岡山白陵中学・高等学校を経て、
岡山大学理学部物理学科3年生。
岡山市在住。

在りし日の園長と授業風景（'79年・第1期生卒業アルバムより）

英語の授業にしてもね、
古典や詩を原書で読むわけ。
辞書にない単語があって
答えられないでいると、
「これはお前、スコットランドの方言やろが！」。
まいったですね。

Takahide Shimizu

園長先生の思い出

●**志水**　今日は1期生、11期生、17期生と、各世代を代表して3人のOBにお集まりいただき、我々教師も交えて、思い思いに母校の思い出を語り合いたいと思います。まず、開校当時からおいでの大森先生に、岡山白陵創設の経緯あたりからうかがいましょうか。

●**大森**　十分とはいえないまでも、進学校としての地位を確立して昨年創立20周年を迎えられたことは大変喜ばしいことだと思います。岡山白陵は昭和51年に高砂白陵の姉妹校として創立されたわけですけれど、当時、創立者の三木省吾園長がここに作ろうと思い描いておられた学校は、かつての旧制高校のようなゆったりしたアカデミックな学校でしてね。覚えている人もいるだろうけど、当初はドイツ語やフランス語の授業もあったくらいなんですよ。

●**志水**　進学一辺倒ではなかったですね。もちろん、勉強はさせられましたけど。英語の授業にしてもね、園長は古典や詩を原書で読ませるわけ。辞書を引いても載っていない単語があるもんだから、当てられても答えられないでいると「これはお前、スコットランドの方言やろが！」とくるのにはまいったですね（笑）。

●**大野**　僕も今でも覚えてますよ。中一のとき、園長に丸暗記しろっていわれた文章。

●**志水**　その点、今はスマートで無駄がないというか、機能的になったというか。僕なんか、OBでもあるし、今はここの教師という立場からもそれを感じますね。

●**大野**　どっちがいいかは難しいですけどね。思い出すのは園長の授業のある日。もうかなり暗かったですよ（笑）。

●**大西**　ピーンと張りつめた一種独特の雰囲気だったね。物音一つしないんだから。音を立てると当てられるからね。

●**大野**　あの緊張感はなかなか味わえませんよ。

●**志水**　園長と目が合わないように、もうみんな下を向いてうなだれている（笑）。

●**大森**　そういう緊張感が今はないねえ。

●**大野**　それは今日、校内に入った瞬間分かりました。職員室にしても、当時は近寄りがたい雰囲気がありましたよ。

●**志水**　園長にビシビシやられた思い出はあげたらもうきりがありませんよ。

●**大森**　そうした厳しさの一方で、園長はいつも全校生徒の名前を一人残らず覚えておられたんだよ。

●**大野**　何だかんだいっても、僕らがそれについていったということは結局、園長の人柄なんでしょうね。

●**大森**　昔は進路指導から生活指導に至るすべてを園長が一人で取り仕切っておられた。自分がこの大学を受けたいと思っても、園長が首を縦に振らないと受けさせてもらえなかったんだ。それはできる限り現役で通したかったからなんだけどね。何とか自分に有利な材料を集めて、園長に直談判する生徒もいたね。

●**大西**　僕ら1期生はデータがないでしょ。おまけに共通一次の最初の年ということもあって、特に条件が悪かった。最初の卒業生で下手をするとあとにも響くから、安全策ということもあったんでし

園長の存在はとてつもなく大きかった。
亡くなったときはみんなの気持ちに、
ぽっかりと大きな穴が開いたようだった。

Tadahiko Omori

ようね。

●大森　新設校だから、生徒募集にも相当苦労されたものだよ。1期生の大西君や志水先生が白陵を志望した動機は何だったの。

●大西　先輩がいないというのは魅力でしたね。新しい学校だから、これは好き放題やれるわと思っていたら、入学してすぐの補習でガツンとやられましたね（笑）。

●志水　僕なんか中学で野球をやってたこともあって、なおさらでしたね。運動部は上下関係が厳しいでしょ。こわい先輩がいないと聞いただけで、バラ色でしたね。ところが、いざ来てみたら、まあいろんな意味であ然とさせられましたけど（笑）。大野君のころくらいになると、もうある程度、学校としての形ができていたころやね。

●大野　そうですね。僕の場合、一度親元を離れて生活してみたいという気持ちもありました。

●大森　いずれにしても、入学説明会で園長の話を聞いて「ぜひこの人に子供をおまかせしたい」そういう気持ちになった父兄が多かったようだね。

●伊原木　その点、私なんかは噂だけで、実際の園長先生は全然知らない世代。お話を聞いていると、園長先生にお会いしたかったような、会わなくてよかったような…（笑）。

激動の時代を振り返る

●大野　僕らが園長に教えてもらった最後の世代。僕らの後の世代から白陵が少しずつ変わっていったような気がします。

●志水　君らが一番変化を経験している世代だろうね。

●大森　園長の存在というと、これはもうとてつもなく大きかったねえ。亡くなったときはもうみんなの気持ちに、ぽっかりと大きな穴が開いたようだった。

●大野　学校自体がどっちの方向に向いているのか分からない。もう学校がなくなってしまうんじゃないかと思ったくらいでした。

●大森　園長が亡くなったのが昭和58年。それから3年くらいは本当に激動の時代だったねえ。

●大野　僕らも反抗期だから、先生のいうことを聞かない。先生は先生で、ますます厳しくなる。

●大森　対決してたよなあ。生徒もしんどかったし、先生もしんどかった。

●大野　僕なんか寮生でしたから、「なんでこんなに寮の規則が変わるんや」いうて、先生方と押し問答を繰り返してました。

●伊原木　私の世代でも、入学した中一のころと卒業する高三のころとでは、6年間で規則が大分ゆるくなったように思いますけど。

●大森　校則そのものは変わってないんだけど、指導の方法が変わってきてるね。今は生徒がある程度脱線することはやむを得ないこととして受け止めようという方針でやっているから。もちろん、やってはいけないことは、はっきりしているんだけどね。

●伊原木　私、大学2年のとき、「白陵が不良化した」って噂を聞いたことがあるんですけど（笑）。

●大野　それは普通の学校になったということなんだよ（笑）。

●大森　昔と違って、今は通学生が多いからね。今は通学生7割、寮生3割くらいか。大野君のころは寮生が8割近くいただろ。今は通学生が大半なもんだから何かと目立つわけだよ。電車の中でネクタイをはずしている子とか、漫画読みながら来る子とか。昔はもっときちんとしていたのにという声は確かに聞くけどね。

●大西　昔は僕ら駅から学校まではたんぼ道を歩かされてましたからね。一般道は邪魔になるからと通らせてもらえなかった（笑）。全国ニュースにもなった例の「立ち食いそば停学事件」（昭和53年）があったのも僕らの時代ですね。

●大森　普通なら「登下校時の飲食はいかんよ」、その程度の注意で終わることなんだろうけど、岡山白陵に教育者としての夢をかけていた園長には許せなかったんだ。駅の立ち食いそば一杯で、大勢の生徒が停学になったからねえ。

●大野　僕らも何か悪さをすると、校内謹慎と称し、よく校内の草刈りや整地作業をやらされました。みんなが勉強している横でね。もうめちゃくちゃ格好悪いですよ（笑）。

寮室（第2碧翠寮）

県代表として、全国大会に出場した柔道部の面々

●大森　先生もやっていたんだよ。生徒が何か不始末をしでかすと担任も作業。大変だったんだよ。そうそう、やはり大野君らのころ(昭和60年くらい)からだね。校則をゆるめるわけではないが、指導はもっと柔軟に粘り強くやっていこうということになったのは。長髪がOKになったのもそのころだ。心配もしたけれど、ふたを開けてみるとほとんど問題はなかったな。

●志水　それだけ生徒の意識が高かったということでしたね。

文武ともに、さらなる飛躍を

●志水　今年は柔道部が岡山県代表として、全国大会に出場しました。スポーツのほうでも次第に注目を集めるようになってきましたね。大野君は野球部だったこともあって、今でもよく応援に来てくれるね。

●大野　うちの場合、県大会初戦突破ということがいつも目標になっていますが、逆にそれがプレッシャーになっている面もあると思うんです。この際、〝悲願一勝〟なんていわず、目標をもっと高く設定してもいいと思うんですよ。

●志水　余談だけど、岡山白陵野球部の記念すべき初試合は勝利で飾っているんだ。高砂白陵とやってね。そのときのピッチャーが大西君で、キャッチャーが僕だったんだ。

●大西　知ってた？　運動場脇の道は僕ら1期生が作ったんだよ。

●大森　昔はことあるごとに作業だったからね。確か、その下にある溝も1期生が掘ったんだよな。もう、生半可な固さじゃなかったね。

●志水　松の根をノコギリで切ったりとかしたもんですよ。僕らが高一のころの体育はほとんど作業でしたね。僕ら運動場を使って何かした覚えがないですね(笑)。

●大森　開校当時は運動場と教室棟だけで、あとは何もなかった。現在、テニスコートがあるところには古墳があったし、体育館もなかった。今、体育館があるところはヘビが多くてね、〝マムシ谷〟といわれていたんだ(笑)。寮もなかったし、1期生で家が遠い子はみんな下宿していたね。施設面では、ちょっと学校とはいえなかったねえ(笑)。

●大野　でも、勉強だけじゃなく、スポーツのほうでも岡山白陵の名が出てくることはうれしいことですよ。僕らのころは勉強はそこそこで、スポーツとなるともう全然ダメでしたから。それが両方ともいける。OBにとって、こんな誇らしいことはないですよ。

●大森　陸上にしても、バスケットやバレー、サッカーにしても、今は地区大会なんかだと、結構入賞して帰ってくるものな。周囲の公立校も「最近、白陵は変わってきた」って目で見ているからね。

●大野　何が変わったんでしょうね。僕は白陵では中学からずっと野球をやってて、一生懸命やったんだけれど、結果は残せなかった。

●大森　部員が増えたこともあるね。今は中学校の7割が部活をやっているから、層が大分厚くなっている。

●志水　指導する側に経験者が入ってくると、ただ練習するだけでなく、勝つための練習ができることも大きいね。

●大野　その点、僕らは試合に行って、対戦相手の学校の準備体操の仕方からかけ声のかけ方まで真似して自分らで覚えた。自分たちでゼロから積み上げてきたという意味では楽しかったです。結果は残したかったですけどね。

●志水　伊原木さんは部活、何やってたの。

●伊原木　図書部です。私たちが作ったんです。私たちのころはまだ小さな図書室しかなくて、貸し出しもなかったんです。何とか自分たちでやってみようと思って、もちろんマニュアルなんてないで

勉強だけじゃなく、
スポーツのほうでも
岡山白陵の名が出てくることは
OBにとって
本当にうれしいことですね。

Keisuke Ono

今年も難関校、難関学部に多数の合格者を輩出した

すけど、何人かで試行錯誤しながらやりました。

●大野　わかるわかる。それって楽しいよね。

●大森　先ほど大野君がいった、めざすなら高い目標をという話だけどね。今は高い目標を持つ生徒が実際増えているんだよ。今年の高三の進路検討会では、東大志望者が62名、京大が28名と、めざすレベルは相当に高い。先生方も、生徒には高一くらいから、「目標は高く持て」と指導しているんだ。

●志水　スポーツも、ぜひとももう一段高いところをめざしたいですね。あと、今年は演劇部が同好会から部に昇格しました。文化部のほうも充実してきています。

●大野　僕らのころに比べると、随分学校らしくなってうらやましいな。今、来てたほうがよかったなあ。

●志水　施設とか設備は確かに今のほうが充実しているけど、まあ、その時代はその時代。あとになってよかったと思うことも多いから(笑)。

岡山白陵で培われたもの

●志水　ところで、OBの皆さんは、すでにそれぞれの分野で活躍されているわけですが、この大野君は中でもちょっと異色の存在でしてね。彼、実はボクサーなんですよ。日本フライ級3位の。一昨年は倉敷で試合がありましてね、先生やOBが大勢応援に行ったんですよ。

●大野　こっちで試合することが夢だったんですよ。何か地元に恩返ししたかったというと、ちょっと大げさですけど(笑)。倉敷の試合には、先生方にもたくさん応援に来ていただいて、OB冥利につきました。

●大西　仕事しながらでしょ、よく続くなあ。

●大野　正直いってきついです。ただ、僕がこうしてボクシングをやっているのも、白陵にいたからじゃないかなと思うんです。

●志水　一見つながりがなさそうだけど、どうして。

●大野　部活がいい例なんですが、再三いったように、僕らのころは一生懸命やったけど、残念ながら結果は残せなかった。でも、それは個人個人の能力が低かったからだとは思いません。ただ、結果が出なかったもんだから、みんな心の中で〝そんなことはない〟と思いながらも、〝これが限界か〟とあきらめてしまっていた部分があると思うんですよ。でも、自分としては、そんなふうに思うのは絶対にいやだったし、「よし、今度はボクシングで、いけるところまでいってみよう」と決心したんです。

●志水　大西君はどう。白陵時代の経験が今の自分に役立っていると思うことはありますか。

●大西　僕は会社ではいわゆる中間管理職です。お客さんからの文句や苦情の矢面に立つ、非常にストレスがたまる仕事なわけです。それが僕の場合ですね、まわりからよく「大西さん、あんた何いわれても顔色一つ変えないね」と、感心したようにいわれるんです。振り返ると、結局それは高校時代に培われたんだとしか考えようがないんですね。とにかく緊張感の絶えない、つらく厳しい3年間でしたけど、おかげで少々のことでは逃げなくなりましたねえ。

●志水　それはあるね。1期生の僕らはとりわけ鍛えられた世代だから。今でも仕事でしんどいなと思うことはありますけど、ギブアップしない自分でいられるのはこの学校のおかげだと思いますね。

●大西　我々1期生は入学したときが104人で、卒業したのはその3分の2の70人。ギブアップしたところから、ぽつんぽつんと席が空いていくわけですよ。ふっと気を抜くと脱落してしまうし、そうなっても、だれも助けてくれない。そんな緊迫した毎日の連続でした。

●大野　それは僕らの世代も同じです。でも、それを乗り越えてきたということは大きな自信につながりますよね。

●志水　僕なんか、生徒に自分のことを〝白陵のランボー〟っていってるもんなあ。あの地獄を生き残ってきた男やぞってね(笑)。

●大西　勉強もさることながら、精神的に強い人間になれたことは本当に大きかったと思いますね。

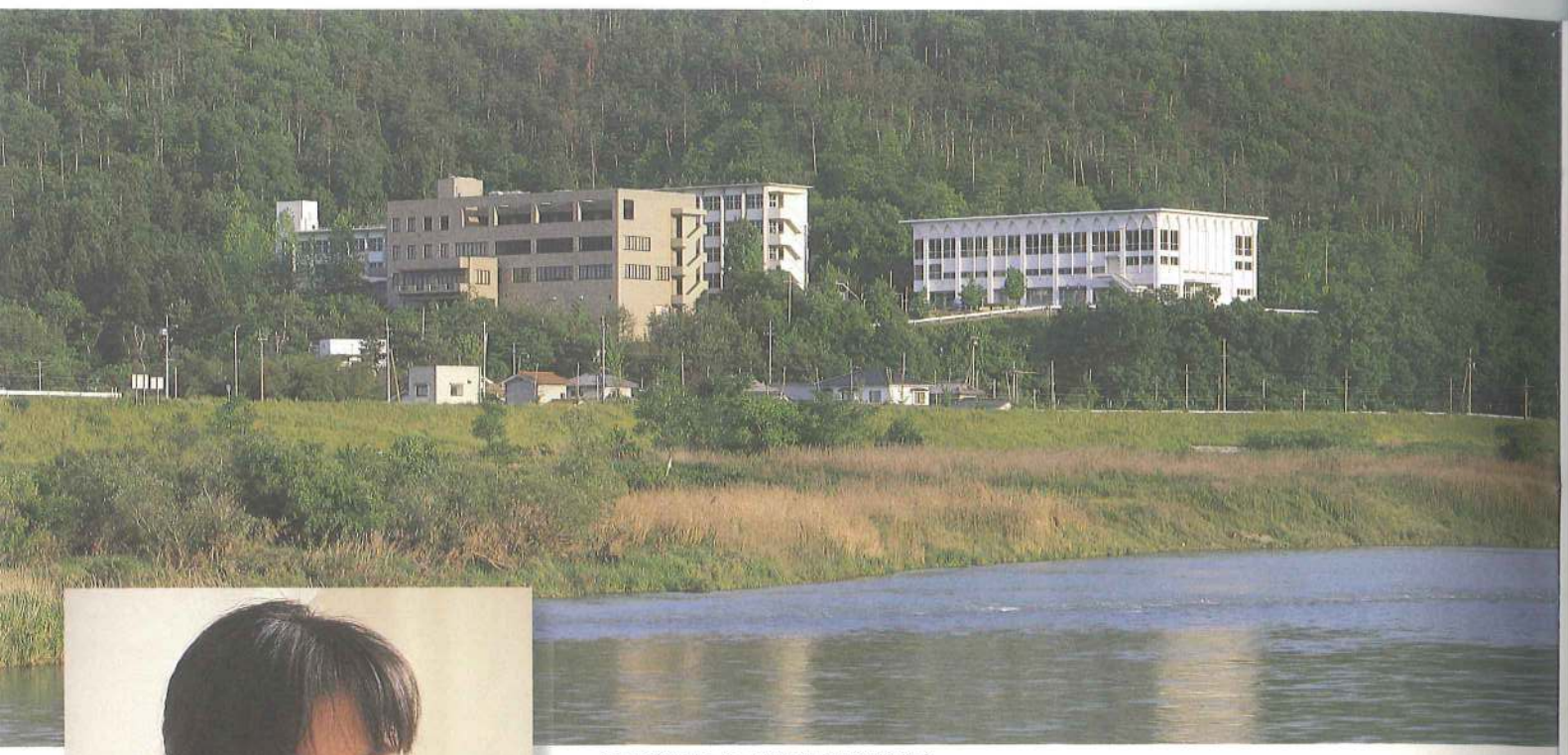
●大森　そういう意味では、卒業してから大変なのはむしろ今の時代のほうかもしれないよ。

●志水　伊原木さんはどうですか。まだ卒業してあまり間がないけど。

●伊原木　皆さんのおっしゃる〝緊張感〟は私たちの時代にはあまりなかったです(笑)。私の場合、まずぱっと浮かぶのは大好きだった

緊張感の絶えない、
つらく厳しい高校生活でしたけど、
おかげで少々のことでは逃げない
精神的に強い人間になれたと思います。

Osamu Onishi



したたる緑に抱かれ、眼下に吉井川を望む校舎

四季折々の自然の中で
感性を磨き、
友人たちと人生について
語り合えたことは
今の私の大きな糧になっています。

Hiroko Ibaragi

学校のまわりの自然です。この季節なら、日増しに鮮やかになるアジサイの花に心なごまされながら校舎までの道を歩いたことを思い出します。山や川がいつもそばにあって、四季折々の変化が楽しめる。そんな素晴らしい環境の中で学べたことは、自分の感性を磨くうえでとてもよかったと思います。

●**大森**　今時分だとウグイスも鳴いてるよ。

●**大西**　僕らはそんな余裕、まったくなかったですねえ（笑）。

●**伊原木**　ここにいると何だか哲学的な気分になれるんです。吉井川を見ながら、友人たちと人生について語り合ったりしたことは、本当に貴重な体験だったと思います。大学の友人には同じような体験をした人がいないせいか、「その気持ち分からない」といわれるのがちょっと残念ですけど。この恵まれた自然の中で自分の感受性を高めながら、友人たちといろんなことを語り合えたことは、今の私の大きな糧になっていると思います。

●**大野**　僕らは白陵で堅い、きまじめな生活を送ったのち、それぞれの道に進みますよね。でも、僕らの世代は同じ釜の飯を食ったものどうしでまた再び集まるんですね。僕は白陵の同級生や先輩たちと野球チームを作っているんです。それだけ白陵で学んだころのことが忘れられないんでしょうね。僕なんか寮生だったこともあって、当時の仲間は家族か兄弟のようなものです。僕にとって、ここで得たいちばん大きな財産はそれです。ところで先生、同窓会とかの企画はないんですか。

●**志水**　うちは各地から集まっているから、卒業してしまうと、なかなか再び集まりにくい事情があるよね。各支部単位では結構やっているようだけど。

●**大野**　また来たいなと思っているOBは意外と多いんです。何かきっかけというか、目玉になるものがあれば、きっと集まると思うんですよ。

●**志水**　それはやっぱり大野君の日本タイトルマッチをおいてほかにない。うちの体育館でどうや（笑）。

●**大野**　もう入りきらないくらい集まったりして（笑）。

●**志水**　お話はつきませんが、時間も来ましたので、そろそろこのへんでお開きにしたいと思います。今日は創立から現在に至る岡山白陵の各時代をほうふつとさせるお話ばかりで、大変感慨深いものがありました。OBの皆さん方には、今後とも母校への助言なりご提案をぜひお願いしたいと思います。本日は皆さんお忙しいところ、本当にありがとうございました。

岡山白陵高等学校・中学校創立20周年記念碑「Wisdom（叡知）」
彫刻家・竹内三雄氏の代表作 Transfiguration "LINK"。
96年11月、岡山白陵同窓会によって寄贈された。

Transfiguration（変容）という言葉には、
ただ単に姿、形を変えるだけではなく、
理想的な姿に変化する意味も含まれています。
この作品は断面が正三角形の3つの輪（RING）を各々2等分し、
角度を変えてそれらをつなぐことで、
1つのつながった輪（LINK）を造形しています。
人と人との出会い。それを静かに見つめ、
やがて対話に参加する彫刻作品――――。
そこには多くのコミュニケーションが生まれます。
"出会い" "調和" "発展" の輪が一つになり、
躍動感にあふれた姿に変容してほしい。
この作品にはそのような願いが込められています。

岡山白陵高校20周年記念同窓会報
平成9年8月1日発行　発行 岡山白陵高校同窓会 〒709-07 岡山県赤磐郡熊山町勢力588

平成９年８月

岡山白陵同窓会
会員各位

岡山白陵同窓会
会長　大津正和

お知らせ

日頃は同窓会活動にご協力いただきましてありがとうございます。このたび、２０周年記念誌ができあがりましたので、お送りいたします。
なお、この場を借りまして会員の皆様にお知らせしたいことがあります。

お知らせ１…皆様からの情報によりますと、本同窓会の名前を使って電話で本人の住所などを調べている業者がいるようです。これらの件について本同窓会はいっさい関知しておりませんし、本同窓会では、住所を調べる際は、原則としてはがきを利用していますので、ご承知おき下さい。なお、怪しい場合には、、役員か、学校の志水(08699-5-1255)までご確認いただければと思います。

お知らせ２…創立２０周年にちなんで、マスコミから電話で寄付の要請があるようです。
一例を紹介しますと、新聞社などから、「２０周年を記念して母校の記事を載せたいので、寄付をしてほしい」という主旨の電話がかかってきます。よく聞いてみると、新聞社では、そうやって有志を募り、金額がある程度以上になった場合に個人の名刺広告を主として学校を紹介する内容の企画を、学校、同窓会には無断で載せるのだそうです。
それらは本同窓会が行っている企画ではありません。本同窓会から事前に文書でのご案内がなく、勧誘の電話などがあった場合、その趣旨と仕組みを詳しくご理解いただいた上で判断されますようお願いいたします。

以上２つのことにつきまして、とりあえずお知らせいたします。

お詫び

昨年度の同窓会報で、寄付金の欄に「室宮　隆夫先生」とあったのは、「室崎　隆夫先生」間違いです。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。